

○ 教科に関する調査の状況

【レーダーチャート】

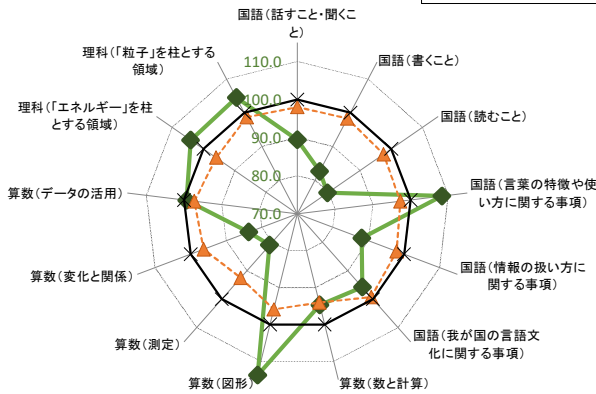
- ・教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの  
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)
- ・中学校理科の結果は、IRTスコアで表されるため、レーダーチャートに表示していません

【平均正答率・平均IRTスコア】

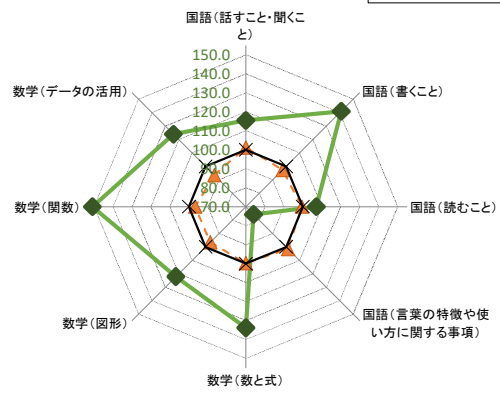
※中学校理科は平均IRTスコア

	小学校			中学校		
	国語	算数	理科	国語	数学	理科
壮瞥町	59.5	57.6	59.2	63.6	63.6	61.1
北海道(公立)	65.4	55.2	56.3	54.0	46.7	50.5
全国(公立)	66.8	58	57.1	54.3	48.3	50.3

小学校



中学校

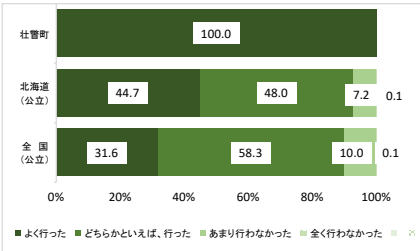


○ 質問調査の状況

小学校

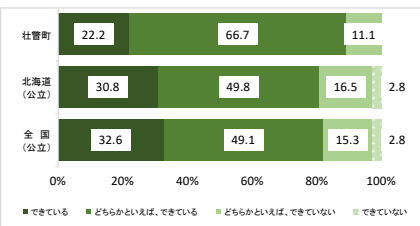
＜学校質問＞

授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか

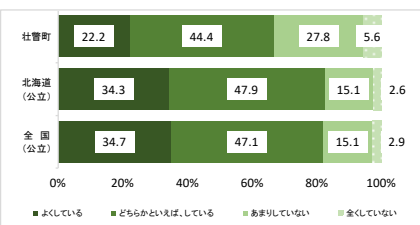


＜児童質問＞

分からないことやよくわく知りたいたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか



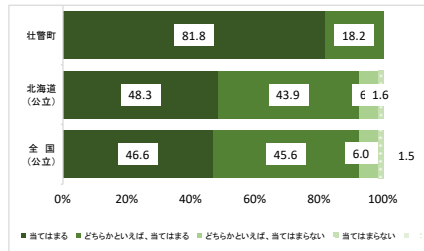
国語の授業で、目的に応じて、簡単に書いたりわく知りたいたいことを書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書いていますか



中学校

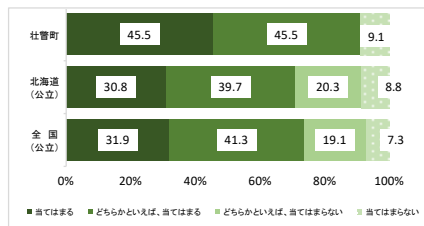
＜学校質問＞

先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか

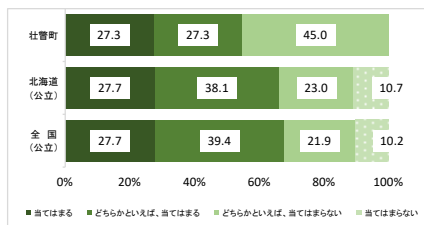


＜生徒質問＞

困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか



文字式を用いた説明や図形の証明を読んで、かかれていたことを理解することができますか



○ 調査結果の分析

【小学校】

- ・児童が自分で考えて学び、表現する学習活動に積極的に取り組み、個別最適な学びの推進を継続したことにより、分からないことやよくわく知りたいたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができていると肯定的に回答した児童の割合が全道及び全国を上回ったと考えられる。

- ・自分の考えが伝わるよう、目的に応じて書き表し方を工夫していると肯定的に回答した児童の割合が全道及び全国より少ないことから、「書く力」を向上させる活動の推進が必要であると考えられる。

【中学校】

- ・困りごとや不安がある時にいつでも相談できる大人がいることや、先生に良いところを認めてもらえることと肯定的な回答をした生徒の割合が全道及び全国を上回っていることから、安心して学習に取り組むことができおり、学力の定着に結びついていると考えられる。
- ・文字式を用いた説明や図形の証明を読んで、書かれていることが理解できると回答した生徒の割合が、全道及び全国より少ないことから、「説明や問題文等を読み解く力」を向上させる活動の推進が必要であると考えられる。

○ 今後の改善方策

- ・客観的データに基づく課題の明確化及び改善に向けた取組の推進
- ・1人1台端末を活用した個別最適な学びと協働的な学びを実現する授業改善の推進
- ・小中一貫教育の推進をととした、系統性と連続性のある教育課程の編成